

よく見るこどものぶつぶつ

神戸大学小児科

こども急性疾患学部門 特命助教

山本 暢之

はじめに

- 皮膚は人間最大の臓器です
- 皮膚に起こる変化は多彩で、しかも他の臓器と違って、見た目に変化がわかるので、保護者の方も気づきやすいです
- 今日は小児科でよく見る「ぶつぶつ」について、お話ししたいと思います

ひとくちに「ぶつぶつ」と言っても…

- 形・色合いなどから様々な呼び方があります
- ひとまとめに言うと、「発疹」ですが・・・
 - 疹：盛り上がっているもの
 - 丘疹：丸いつぶつぶ状に盛り上がるもの
 - 膨疹：ひろく膨れ上がるもの。一定の形は無い
 - 斑：もりあがらず、平べったいもの
 - 紅斑：押すと赤みが消えるもの。血管が広がって出来る
 - 紫斑：押しても消えないもの。血管から血液が漏れて出来る

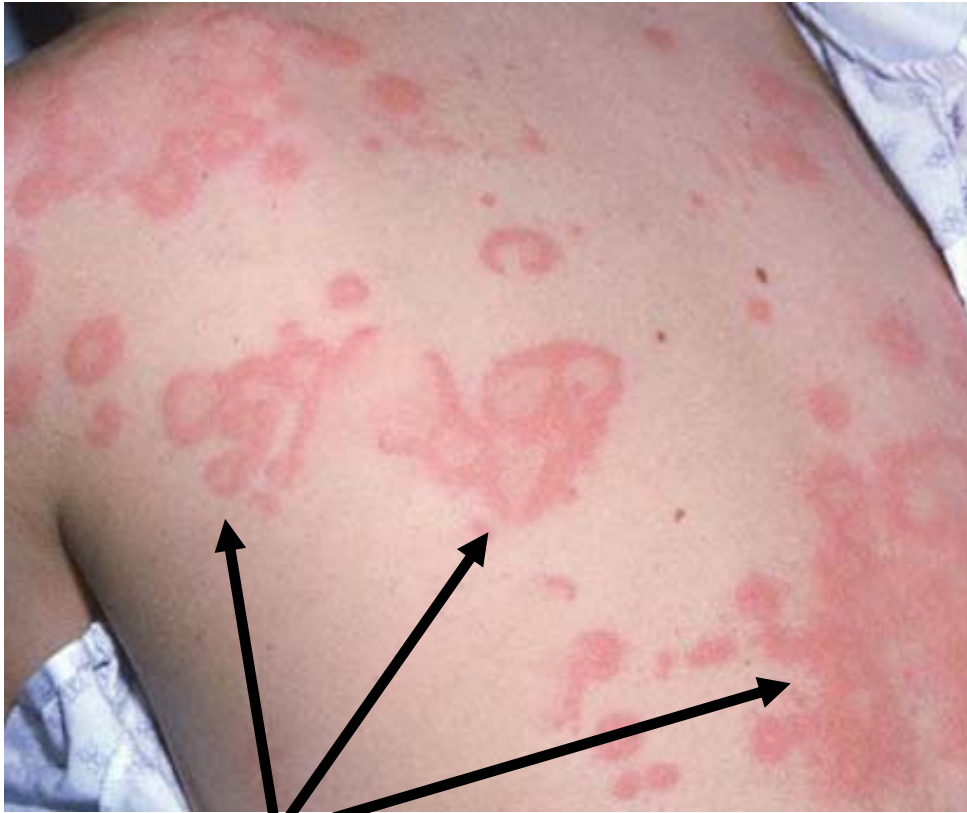
本日お話しする「ぶつぶつ」

- じんましん
- 水痘(みずぼうそう)
- 突発性発疹
- 麻疹(はしか)
- 風疹(三日はしか)
- 手足口病
- 伝染性膿痂疹(とびひ)
- 伝染性紅斑(りんご病)
- 紫斑をきたす疾患

じんましん(じんま疹)

- 皮膚がもこもこと盛り上がる=膨疹
- とてもかゆい
- 形はさまざまで、個別に出てきたじんましん同士がくっついて大きなじんましんとなる
- 持続時間は1時間～長いと1日くらい

じんましん(じんま疹)



- 形のそろわない盛り上がった発疹
- じんましんの出ている皮膚をひっかくと赤みのある発疹の筋が出来る(赤色皮膚描記症)

じんましん(じんま疹)

- 原因：食物や環境へのアレルギー
気候の変化(急に寒くなるなど)
体調不良(感染症罹患時)などさまざま
- 治療：かゆみ止めの飲み薬・塗り薬
じんましんが出ているところを冷やす
(温めるとかゆみが増すので注意!!)
- 息が苦しい、ぐったりしているなどの症状があればすぐに受診を!!

水痘(水ぼうそう)

- 水痘・帯状疱疹ウイルスによる感染症
- 潜伏期間は約2週間。
- 発症後1週間ほどで治癒
- 中に水を持った赤い発疹が、口の中、体、頭など全身に出来る。かゆい!!

水痘(水ぼうそう)



破れたところ → のちにかさぶたに

- 赤みのあるぶつぶつが1-2日で体中に広がる
- 破れるとその後にかさぶたが出来て、乾く

水痘(水ぼうそう)

- 診断：視診による。診断は容易
- 治療：抗ウイルス薬の内服(5日間)
かゆみ止めの塗り薬
- ぐったり、元気がない時は早めに受診を
- 発疹の中の水にウイルスがいっぱい!!完全に乾くまでは感染性あり、登園・登校は禁止!!

突発性発疹

- ヒトヘルペスウイルスによる感染症
- 生後4-5か月から1歳くらいに好発
- 「はじめての高熱」で受診することが多い
- 高い熱が3-4日続く 便も少し緩くなる
- 解熱したのち、体中に発疹が出る

突発性発疹



- 中には水を持たない、盛り上がりの少ない発疹
- 一つ一つはあまりくっつかない
- 熱は下がっているか、解熱傾向にある

突発性発疹

- 診断： のどにぶつぶつが出る(永山斑)こともあるが、最終的には発疹が出てから診断されることが多い
- 治療： 症状を和らげることに努める
 - » 解熱剤・水分摂取・安静
- けいれん、ぐったりしてきたなどの症状があれば早めに受診を

麻疹(はしか)

- 麻疹ウイルスによる感染症
- 予防接種を受けていない1歳前後のこどもが多くかかる
- よく見る…訳ではない
- はじめの2-3日は風邪のような症状
- 一旦解熱した後、**発熱とともに発疹が出る**
(二峰性発熱)。発疹同士はくっつく傾向有り

麻疹(はしか)



- 赤みのある発疹 盛り上がりは少ない
- ぶつぶつ同士はくっつく傾向あり
- 治癒後に色素沈着を残すことあり

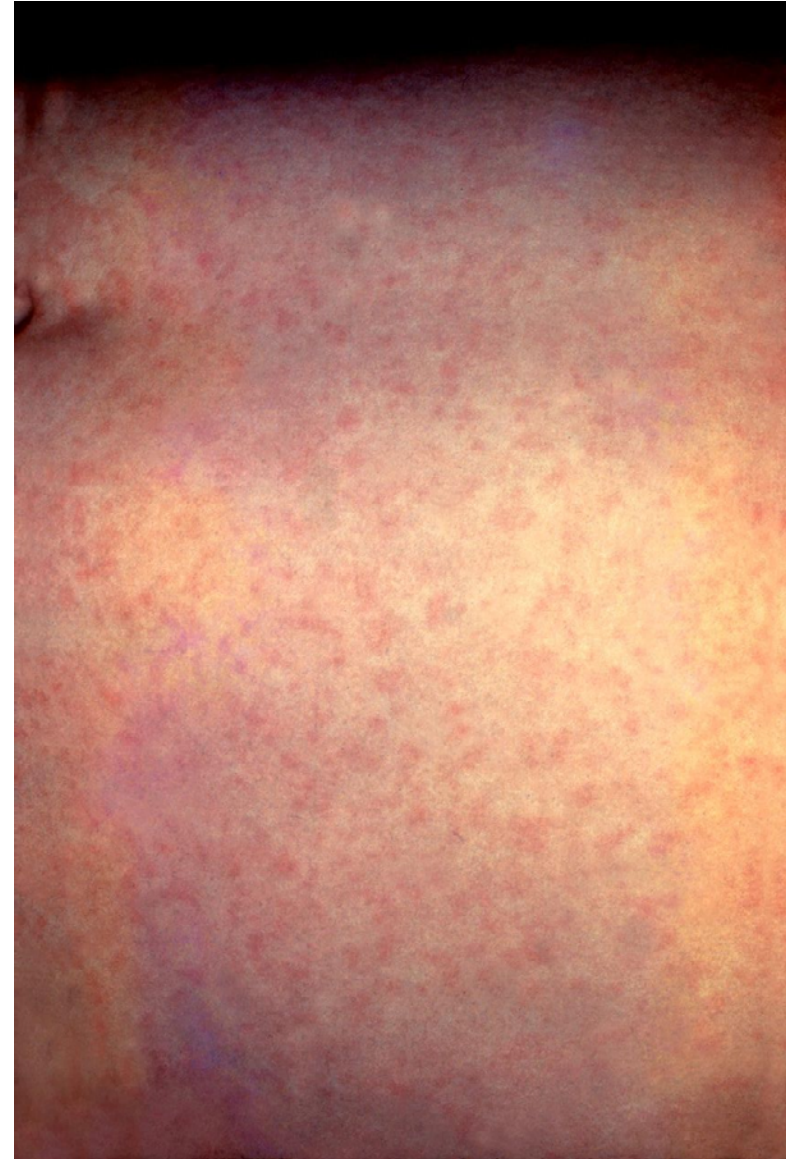
麻疹(はしか)

- 診断：症状と発疹の形から診断します
- 治療：症状を和らげる治療
 - 解熱剤・水分摂取・安静
- 解熱後3日経過すれば通園・通学可
- まれに脳炎・肺炎になるため注意が必要!!
- 様子がおかしい場合にはすぐに病院へ

風疹(三日はしか)

- 風疹ウイルスによる感染症
- 潜伏期間は2-3週間
- (熱と共に)赤くて小さな発疹が体中に出る
- 発疹同士がくっつく傾向はあまりない
- 全く熱のない子から、3日間発熱が出る子までさまざま。いずれにしても3日で治る

風疹(三日はしか)



- 赤くて小さな発疹
- 発疹がくっつく傾向は弱い

風疹(三日はしか)

- 診断：症状からは決めにくい
血液検査が必要なことも
– 主な症状：発熱・発疹・首のリンパ節の腫れ
- 治療：症状を和らげることに努める
– 解熱剤・水分摂取・安静
- 発疹が消えたら治癒 それまで自宅で
- 妊娠初期の妊婦さんは感染に注意!!
(先天性風疹症候群)

手足口病

- エンテロウイルス、コクサッキーウイルスによる感染症
- 夏に流行することが多い
- 手・足・口の中に水ぶくれ、口内炎が出来る
(口の中だけの時はヘルパンギーナかも)
- 熱はないことが多いが、たまに高熱になる

手足口病



- 手足口限定で丘疹が出現する

手足口病

- 口の中の痛みのせいで、飲食が出来なくなる場合もある(その場合には入院が必要)
- 治療：対症療法(解熱剤・痛み止め)
- 熱がなく元気になれば発疹が出ていても登校、通園は可
- ウイルス自体は1か月ほど便から出てくる

伝染性膿痂疹(とびひ)

- 擦り傷や虫刺されの後に、細菌が入り込んで**水ぶくれ**を作る。かゆみあり。
- 掻いた手で他の場所を掻くと、そこに水ぶくれが「とびひ」する
- 治療：抗生物質の飲み薬・塗り薬
- 手をしっかり洗い、清潔に!!

伝染性膿痂疹(とびひ)



- 水ぶくれがつぶれた後のかさぶた部分
- 乾ききるまでは感染力あり、注意が必要

伝染性紅斑(リンゴ病)

- ヒトパルボウイルスB19による感染症
- 発熱などの風邪症状の1-2週間ほど後に、
頬、腕に紅斑が出現する
- 腕の紅斑は網目状で、「レース状」と
言われる

伝染性紅斑(リンゴ病)



- 「りんご」のように紅い頬になる
- 腕には「レース」の網目のような紅斑が出来る
- 盛り上がらない発疹

伝染性紅斑(リンゴ病)

- 確かに「伝染性」なのだが、本当に感染力を持っているのは発疹が出てくる前
- 紅斑が出てきたころには感染力はない
 - そのころには通園・通学も普段通りで可
- 妊婦が感染すると胎児が胎児水腫を起こす可能性があるので注意が必要

紫斑をきたす疾患

- 紫斑：血管から血液が漏れ出したもの
 - 押しても消えない!!
 - 漏れ出る原因：血管が血液を通しやすくなる
細かな出血が止まらなくなる
 - 特発性血小板減少性紫斑病(ITP)
 - アレルギー性紫斑病：4-7歳に好発
- いずれも原因はさまざま
- きっかけの不明な紫斑は早めに受診して下さい

特発性血小板減少性紫斑病(ITP)



- 血小板：血液中にある血を固める血球
- 自身の血小板を敵とみなして攻撃する
 - 血小板が減って、出血しやすくなり、あざが出来る
- 盛り上がりのないぶつぶつになる

アレルギー性紫斑病



- 血管から血液が漏れやすくなり、紫斑が出来る
 - 紫斑以外にも腸のむくみによる腹痛などの症状が出る
- 若干盛り上がり、触れることが出来るぶつぶつ

まとめ

- 小児で見られる「ぶつぶつ」の中で代表的なものについて解説しました。
- 病気ごとに「ぶつぶつ」の出方、形に特徴がありますので参考にしてみてください。全身状態が良ければ経過を見ていただいてもよいものも多いです。
- 押しても消えない「紫斑」については、血小板の低下などの可能性もありますので、原因がはっきりしていないものについては早めに受診するようにしましょう。

参考文献

- 症例写真でよくわかる 外来で見る子どもの皮膚疾患
馬場 直子(著) 診断と治療社
 - 医療従事者向けです。写真が豊富で参考になります。今回お話した以外の疾患についても載っています。
- お母さんに伝えたい 子どもの病気ホームケアガイド
日本外来小児科学会(編著) 医歯薬出版株式会社
 - ご家族向けに我々からお渡しする、病気のパンフレット集です。
 - 小児期に見られる様々な病気について、ご家庭での対処法などがまとめられています。